

尾台榕堂 医案③

雑貨屋弁次郎の妻。麻疹の後、継いで肺癰を患う。衆治効無し。余に治を乞う。之を診るに、蒸熱、悪寒、脈数、汗出で、唇口乾燥、氣息腥臭、咳して胸痛み、膿を吐すること米粥のごとく、飲食、味無く、身体削瘦す。

余、家人に諭して曰く、「軟弱の軀を以て、危険の症を得たり。若し平淡泛雜の剤を用うれば、大命之に先んぜん。峻薬を以て蚤く其の鋒を挫くに若かず」と。家人諾す。因りて先ず桔梗白散三分を投じ、快吐下を得たり。大勢已に挫くと雖も、咳は尚止まらず、精氣大いに困憊し、熱して胸腹攣痛す。是に於いて四逆散加桔梗貝母を与う。之を服すれば、膿は漸く出でず、熱漸く退く。月余にして、諸症全く愈ゆ。